

1 学校評価（児童・保護者・教職員）アンケート結果

- ・ 別紙資料を参照しながら以下をご覧ください。

2 学校評価（自己評価）

船引南小学校教育目標

豊かな心とたくましい体をもち

夢輝かせたゆまず努力する子どもの育成

(1) 全般を通して (※アンケート問 1～2)

児童の多くは、楽しく学校生活を送っていることがうかがえる。児童一人一人がかけがえのない大切な存在との認識のもと、児童の思いや考えに寄り添い、丁寧に掬い上げようと努めてきた学校の姿勢が評価されたと考えている。

将来の夢や目標に関しては、学校からの情報発信に対する意識を改善してくことで、保護者あるいは地域へと児童の夢や目標が伝播していく可能性に期待している。地域とともに教育活動を実現していくための基礎となる部分でもあるので、丁寧かつ確実に取組を推進していきたい。

(2) 学習面について (※アンケート問 3～6)

『「見つめ」「つながる」道徳教育の可能性 ～「ひと工夫」による道徳科づくり～』を本校の教職員研修のテーマに掲げ、一年間取り組んできた。道徳科の授業づくりを切り口として、他教科の学習活動にも幅広く応用しながら、児童の「分かる」「できる」を引き出してきた学校の姿勢が評価されたと考えている。一方で、個別最適な学びの保障という視点には課題が見えた。『全ての児童は「分かりたい」「できるようになりたい」と願っている』ことを大前提として、個別最適な支援のあり方を探り続けるとともに、「分かる」「できる」児童が発展的な課題に取り組む学習環境の整備に努めていきたい。また、今後は「話し合い活動」をさらに深めた「聴き合う活動」を大切にしたい授業づくりを考えていくことで、児童の表現力やコミュニケーション力を高めていきたい。

家庭学習に関しては、児童と保護者の意見の相違がみられる。この要因を明らかにしながら学校から「家庭学習のきまり」を確認していくことで、より効果的な家庭学習の取組が期待できると考えている。

読書に関しては、「習慣」に対する認識の差が表れていると考えている。「習慣」を形成していくために、まずは「時間を設定して」読書に取り組むことも一つの手段であるので、家庭と学校で連携しながら習慣形成に努めていきたい。

(3) 礼儀・思いやりについて (※アンケート問 7～9)

あいさつに関する評価は、児童・保護者・教職員とも昨年度の値を大きく上回っている。全校的にあいさつに対する意識や取組が改善していると評価されたと考えている。今後は、あいさつの質（状況に応じたあいさつの仕方の工夫、相手に対する敬意の表し方）を考えていきたい。

人は環境によって育つと言われる。社会のきまりに関して、児童・保護者・教職員とも高水準の値であることから、大人の態度・ふるまいが良好であることが、児童の規範意識に好影響を及ぼしているとの評価であると考えている。「やって見せる」保護者・地域の方々の姿から、児童は自身の態度・ふるまいを見つめ直すとともに、下級生への接し方も学んでいることが、学校生活のあらゆる場面で

目にしたり、感じたりすることができる。

思いやりに関しても、児童・保護者・教職員とも高い水準の値である。登校班の班長が下級生の歩く速さに目を配りながら歩き方を工夫したり、縦割り清掃班では上級生が下級生に寄り添いながら清掃の仕方や用具の扱い方を教えたりする姿を日常的に目にすることができる。「思いやり」はともすれば「おせっかい」になる。その違いを発達段階に応じて児童に示しながら、双方向の敬意によって成り立つ価値である「思いやり」の心をさらに育んでいきたい。

(4) 健康・運動について (※アンケート問 10～13)

本校において、規則正しい睡眠については、メディアコントロールと関連付けて考える必要がある。メディアの利用により、家庭学習への取組が不十分になったり、就寝時刻が遅くなったりと、望ましい生活習慣の形成を脅かすものとなっているケースがある。メディア利用のきまりを各家庭で適宜確認する機会を設けながら、発達段階に応じたメディア利用のあり方を探っていききたい。

食事に関して、児童・保護者・教職員で評価にばらつきがみられる。学校給食においては、好き嫌いなくバランスよく食べること（食物アレルギーを除く）として指導している。食は児童の心身の発達に大きな影響を及ぼす要因となることから、家庭と学校が協働して食についての理解を深めていきたい。

(5) 学校運営等について (※アンケート問 14～23)

学校運営に関しては、おおむね高い評価をいただいたと考えている。その中でも特に、地域の人々や専門家による指導に関する評価が高かった。今年度は駐在所警察官、学校支援ボランティアの方々、地区交通安全協会の方々、各地区区長の皆様、地区の農家の方々、地域の店舗・企業の方々、そして何より PTA の皆様から物心両面でのご支援を賜ることで、多くの体験活動の機会を得ることができた。体験活動により児童の心身が育ち、その育ちを家庭・学校で共感的に理解していることが評価されていると考えている。また、学級だよりや学校ホームページを通して、児童の学習活動や学校生活の様子を適宜発信してきたことも評価につながっていると考えている。

児童の努力を認め生かすことに関しては、これまでの児童理解の仕方に加えて新たな視点から児童を見とったり、教職員間の情報交換をより密にしたりすることを通して、児童理解の改善及び深化につなげていきたい。

(6) 総括

アンケート全体から、いずれの項目でもおおむね高い評価をいただいた。コミュニティースクールの根幹をなす「地域とともにある学校」をめざし取組んできた学校運営への評価であると受け止めている。

本校では児童・教職員の学習活動の充実を図るため、関係諸機関や地域人材とのつながりを生かした体験活動の機会を取り入れてきた。このことが児童の成長の糧となり、その成長が保護者と教職員に共感的に理解されていることは、次年度につながる本校の強みとなる。

一方で、個別最適な支援のあり方、「聴く」力を高めること、礼儀や思いやりの内容理解、あいさつの質の向上、規則正しい生活とメディアの利用など、家庭と学校が一層連携・協働し、能力の向上及び課題の改善に向けて取組まなくてはならないことも見つかった。

本校の強みと課題を明確に意識しながら、よりよい学校のあり方を探っていききたい。